

生ごみ堆肥化装置「ガボツジ君」の使い方

手順		ポイント
①	空の発泡スチロールに8割くらい土(床材)を入れる。	2割は残しておく。
②	米ぬかを適量入れる。	全体に振りかける程度で OK
③	土の真ん中に小さい穴をあけ、そこに畑の土を入れて少しかき混ぜる。	畑の土が種菌になる。
④	水を入れて全体を湿らせる。	
⑤	<p>水分を切った生ごみを入れてかき混ぜる。 ※生魚、玉ねぎの皮、貝殻、鳥の骨、スイカ、ミカンの皮を除く。</p> <p>生ごみを入れるごとに、かき混ぜる範囲を広げていく。</p> <p><u>⑤の手順を繰り返す。</u></p>	<p>・4～5日経って、中身の温度が40℃～50℃になっていれば上手くいっている証拠(手で触って暖かければOK)。なっていない場合は、米ぬかを追加する。</p> <p>・土に水分が多すぎる場合は、手順①で残した土を適量追加する。</p> <p>・しばらく経つと白い綿のようなカビに近いものができることがあるが、これは順調に発酵が進んでいる証拠なので気にしないでOK</p>
⑥	おおよそ3～4か月経つと生ごみが消化されなくなるため、新しい土(床材)に入れ替える。	
⑦	新しい土(床材)に入れ替える際に、今まで使用していた土を少し残しておく。	この土が種菌の代用になる。
⑧	今まで使用していた土を、土のう袋などに入れ、1か月放置しておく。	1か月後に堆肥となる。
⑨	空になった発泡スチロールに新しい土(床材)を入れ、手順①に戻る。	次の種菌には、手順⑦の土を使用する。